巻 頭 言

補綴歯科学会に期待されること

What is expected for Japan Prosthodontic Society?

北海道大学名誉教授　横山　敦郎
Professor Emeritus of Hokkaido University
Atsuro Yokoyama

このような機会をいただきました窪木拓男理事長，池邉一典編集委員長に心より感謝申し上げます．本年3月にて大学を定年退職したことから，40年間歯科補綴学の教育，研究，臨床に携わり，また十数年間本学会の会務に従事した経験をもとに，補綴歯科学会に期待されることについて述べさせていただきたいと存じます．

近年，栄養（食・口腔機能）は高齢者におけるフレイルの予防と進行の抑制に寄与する[1]，機能歯数が生命予後に関係する[2]，さらに臼歯部の咬合接触の喪失は高齢者のアルツハイマー型認知症の進行に関係する[3]のなどの報告がなされており，補綴歯科のアウトカムである「健康・長寿やQOLの保持・向上」が，まさに国民から本学会に期待されていることではないかと思います．

国民の健康福祉への貢献を具現する方法の一つとして，昨年5月に補綴歯科専門医制度が認定され，1992年に本学会が認定医制度を発足して以来，長年の悲願であった広告開示が可能となりました．歯科専門医機構は，専門医を「それぞれの専門領域において適切な研修教育を受け，十分な知識と経験を備え，患者から信頼される専門医療を提供できる歯科医師」[4]としており，本学会では，「日本補綴（ほてつ）歯科学会の専門医制度は，補綴歯科の専門的知識と技術，経験を持つ歯科医師により，この分野で高い水準の歯科医療を行って，保健福祉に貢献することを目的としています」とHPに記載しています．新制度においては，申請ならびに更新時にこれまでの制度に比較して多くの臨床例，特にいわゆる難症例の提示が必要とされていることから，新制度では，より高い水準の診療能力が担保されるものと思われます．しかしながら，これまでも制度構築の際に議論されてきましたが，「補綴」の用語の国民への周知はいまだ十分とは言い難いものがあります．本学会では，以前より市民フォーラムを実施し，令和3年には補綴の日（4月12日），令和5年にはマスコットキャラクターを制定し，用語としての「補綴」の周知を図ってきました．専門医制度の制定自体が，補綴歯科の国民への周知に寄与することも期待されますが，今後もより一層の努力が必要と思われます．さらに，本制度に関して国民から期待されるのは，高い水準の補綴歯科治療を国民のだれもが受けられることです．本学会HPには補綴歯科専門医のデータベースとMAPが掲載されており，専門医の在籍する診療施設の所在はわかりやすくなりました．しかし，その多くは大都市，特に歯科大学・歯学部のある都市に存在し，残念ながら補綴歯科専門医が不在な県，数名に満たない県もあり，国民の付託に応えるには，専門医の養成に努め，補綴歯科専門医を増加するとともに大都市への「偏在」から全国への「遍在」が求められています．多くの専門医の養成，すなわち「高い水準の診療」を多くの歯科医師に可能とするには，AIを含めたDXが有効であることには言をまたないと思います．AIには，データベースの構築によるビッグデータの集積が必要であり，本学会の特命委員会は，データベースを担当し，補綴歯科臨床データベースの構築と運用を進めており，今後が期待されます．

8020達成者，すなわち80歳で20本の歯を有する者の割合は年々増加し，最新の令和4年の歯科疾患実態調査[5]からは，51.6%と推計されています．その一方で同調査では，1人平均現在歯数は，65～69歳を境に急に減少すること，補綴装置を装着している者の割合は70～74歳を境に急に増加していること，さらには機能

面においてもかめないものがある者の割合も 70 ～ 74 歳で増加することが報告されています．今後も高齢者数ならびに全人口に対する高齢者の割合が増加し，難易度の高い症例も増加することから，補綴歯科治療の重要性は高まり，国民からは高い水準の治療が求められることが予想されます．

これまで十数年にわたり理事，評議員，代議員として本学会の会務に携わってきました．特に，コロナ禍とも重なった総務担当の時期には，皆様から多大なご支援，ご協力をいただきました．この場をお借りし，あらためて深く感謝申し上げます．今後の日本補綴歯科学会のますますの発展を祈念いたします．

文　献

1）飯島勝矢．虚弱・サルコペニア予防における医科歯科連携の重要性：～新概念『オーラル・フレイル』から高齢者の食力の維持・向上を目指す～．日補綴会誌 2015；7：92-101．
2）Maekawa K, Ikeuchi T, Shinkai S, Hirano H, Ryu M, Tamaki K et al. Number of functional teeth more strongly predicts all-cause mortality than number of present teeth in Japanese older adults. Geriatr Gerontol Int 2020; 20: 607-14.
3）Miyanoa T, Ayukawa Y, Anada T, Takahashi I, Furuhashi H, Tokunaga S et al. Association between reduced posterior occlusal contact and Alzheimer’s disease onset in older Japanese adults: Results from the LIFE study. J Alzheimer’s Dis 2024;97: 871-81.
4）一般社団法人　日本歯科専門医機構，歯科専門医とは，<https://jdsb.or.jp/about_specialist.html>
5）厚生労働省，令和４年　歯科疾患実態調査結果の概要，<https://www.mhlw.go.jp/content/10804000/001112405.pdf>